



五十沢小学校だより

いのち かがやく



No.10

令和8年1月29日



【子どもの笑顔】を支える【保護者、地域の笑顔】と【教職員の笑顔】

私の学校経営方針のスローガンとして「自分で自分を伸ばそうとする心を育む」を掲げてきました。全校朝会や学校だよりも、繰り返しお伝えしてきたところです。

今回は、周りの大人たちが、子どもの伸びようとする心を育むために、どうしたらよいのかを考えています。

子どもが伸びる力を信じて ～困難に出会ったときこそ育つ「自立の芽」～



子どもたちは本来、自分の力で伸びようとする強いエネルギーを持っています。教育心理学者のジャン・ピアジェは、子どもを「自ら成長する存在」と捉え、周囲の大人はその成長を妨げない環境を整えることが大切だと述べています。

つまり、子どもは“育てられる存在”であると同時に、“自ら育つ存在”でもあるのです。

✿ 子どもが伸びようとする瞬間を大切にする

子どもが「やってみたい」「自分でできる」と感じたとき、その気持ちを尊重することが成長の土台になります。教育学者の無藤隆氏は、子どもの主体性を育てるには「大人が手を出しすぎないこと」が重要だと指摘しています。

- ・時間がかかるでも自分でやってみる。・失敗しても、次の方法を考える。
- ・困ったときに助けを求める経験をする。

こうした積み重ねが、子どもに「自分でできる」という感覚を育てます。



✿ 困難に出会ったときこそ、成長のチャンス

子どもが壁にぶつかったとき、親としてはつい先回りして守りたくなるものです。しかし、発達心理学者のヴィゴツキーは「子どもは少し背伸びをすれば届く課題に挑戦するとき、最も成長する」と述べています。つまり、困難は避けるべきものではなく、成長の入口です。

親がすべきことは、困難を取り除くことではなく、乗り越えられるよう支えること。以下のような姿勢が、子どもに“困難に向き合う力”を育てます。

- ・「大丈夫、あなたならできる」と信じる。・必要なときだけ、そっと手を添える。
- ・失敗しても責めず、次の挑戦を応援する。

✿ 親の役割は「守る」から「支える」へ

困難に直面した子どもに対して、どうしても親は、守り、助けたくなります。しかし、そのときの対応が「自立の芽」を育む最大のチャンス。次のように関わることが、大切です。

- ・「そんなに悔しかったんだね」と悔しい気持ちを受け止め、子どもの気持ちや考えを丁寧に聴く。
- ・「どうしたらうまくいくか、一緒に考えてみよう」と、子どもが自分で選び、決める機会を意識的に増やす。決めたことには、できる限りサポートし、認める。
- ・結果よりも、努力や過程を大切にする姿勢を示したり、言葉をかけたりする。
- ・失敗しても戻ってこられる“安全基地”として少し離れて見守る。

このような親の姿勢は、子どもが自分の力で立ち上がるための支えになります。そして、自分で立ち上がれた時には、認め、褒め、その経験が次の挑戦へつながるように見守ることが、親の大切な役割です。親は、子どもの成長を“操作する”のではなく、成長が起こる土壌を整えるのです。

子どもが苦しむ姿を見ていることは辛いものです。また、子どもの選択や途中の努力は、歯がゆさを感じたりや親の心がモヤモヤしたりするものです。そこをぐっと飲み込み、子どもの自ら伸びようとする力を信じることが大切です。親ができるのは、子どもが力を発揮しようと思える環境をつくり、安心して挑戦できる関係を築くことです。

子どもが自分で決めたり、自分で乗り越えられたりすることが「自分には価値がある」「挑戦しても大丈夫だ」と次の挑戦、自分の成長に向かう力になります。

親は、子どもの人生の“主役”ではありません。けれど、子どもが自分の力で歩き出すための“最良の伴走者”にはなれます。その伴走のあり方こそが、親の役割なのです。

✿ 最後に



学校は、子どもたちが安心して挑戦し、失敗し、また挑戦できる場所でありたいと考えています。そして、そのような子どもの成長場面を保護者と同じ目線で支えていきます。子どもの伴走者が保護者であるように、保護者の伴走者として学校とともに子どもたちの成長を支えます。

互いに力を合わせ、子どもが自ら伸びようとする力を信じ、困難に向き合う姿を温かく見守っていきましょう。そして、喜び合いましょう。そんな五十沢小学校なら、きっと子どもたちはより大きく成長していくはずです。

これからも、学校とご家庭が手を携えながら、子どもたちの「未来へ踏み出す力」を育んでいければ幸いです。



五十沢小コミュニティ・スクール第3回学校運営協議会

1月27日(火)第3回学校運営協議会が行われました。この会は、今年度の学校運営に対し、ご意見をいただく場です。委員の皆様に、第2回の学校評価アンケートの結果を示し、グランドデザインに掲げた内容について評価をいただきました。どの項目においても、目標の数値をこえ、取組も子どもたちの姿もとてもよかったです、と高評価をいただきました。

学校でも課題として挙げられ、この会でも話題に上がったのは、以下のことでした。

○国際科はこれから社会にとても重要であるので、交流を取り入れ、がんばってほしい。

○家庭学習は、学ぶ習慣として本当に大切でしっかりやってほしい。保護者への働きかけとして声をかけるだけでなく、違った方法で示していくことも必要だと思う。

○PTA プール開放は、屋外プールでは危険。授業では臨機応変な対応ができるが、保護者が監視する中では、難しい。市内で当校を含めた3校が行っているそうなので、PTA 同士で協力し屋内プールを利用することも考えてはどうか。

○鼓笛の活動が、来年度、厳しくなる。学級減に伴い職員が減る。音楽指導、金管指導を外部指導者に頼っている現在、継続することも校内職員で行っていくことも、大変厳しい。伝統やこれまでの思い出を大切にするとは言え、鼓笛を行う教育目的は、他の行事で十分行っている。無理なものを無理にやらないやらない方向で考えていくとよいと思う。

これらのご意見を来年度の学校運営に生かして行くよう、学校職員と話し合って行きます。さらに、保護者の皆さんと話し合う場として、2月27日(金)の「六年生を送る会」の前の時間帯で行う「学校説明会」でも時間を設け、進めていきたいと考えております。アンケート等での意見集約の予定はありませんので、ぜひご参加いただき、ご意見を聞かせください。

新潟日報 魚沼版 「自由帳」五十沢小学校児童掲載

11月11日から12月23日まで、新潟日報の魚沼版「自由帳」のコーナーは五十沢小学校が担当しました。全学年分がそろいましたので、裏面に紹介いたします。